

平成29年度 第1回 安曇野市まちづくり推進会議（推進委員会） 会議概要

- 1 会議名 平成29年度 第1回 安曇野市まちづくり推進会議（推進委員会）
- 2 日 時 平成29年12月14日（木） 午後1時30分から午後3時30分まで
- 3 会 場 本庁舎 3階 会議室301
- 4 出席者 重野委員、吉原委員、田村委員、熊井委員、沼尾委員、栗田委員、
大神委員、内田委員、川井委員、瀧澤委員
- 5 市側出席者 宮澤市長、宮澤市民生活部長、小林地域づくり課長、山田地域づくり課
長補佐兼まちづくり推進係長、金子まちづくり推進係主査
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 1人 記者 4人
- 8 会議概要作成年月日 平成29年12月15日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

委嘱書交付

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 自己紹介
- (4) まちづくり推進会議について
- (5) 役員の選任
- (6) 地域課題解決の依頼について
- (7) 地域課題の検討
 - ①課題の精査
 - ②ワーキンググループの構成について
 - ③ワーキンググループによる今後の研究・検討について
- (8) その他
- (9) 閉会

2 会議事項概要

委嘱書交付（宮澤市長より）

- (1) 開会（進行：宮澤市民生活部長）
- (2) あいさつ（宮澤市長）
- (3) 自己紹介（委員→市事務局）
- (4) まちづくり推進会議について

【事務局】（「安曇野市まちづくり推進会議設置要綱」について説明。）

- (5) 役員の選任

【事務局】会長及び副会長の選任についてお諮りしたい。

※委員の互選により、会長に田村委員、副会長に熊井委員、大神委員を選出。

【事務局】それでは、代表して会長よりごあいさつをお願いしたい。

【会長】このような大役を仰せつかり大変緊張している。重要な課題の検討を進めるため、皆様のご協力をいただく中でお役に立てればと思い、引き受けさせていただく。よろしくをお願いしたい。

(6) 地域課題解決の依頼について

※安曇野市長より会長へ、市区長会より提起された下記2点について、地域課題解決の検討を依頼。

- ①全市的な見守り、支え合い、助け合いの仕組みづくりについて
- ②区の意義や重要性の理解促進について

【事務局】以降、議事の進行を会長にお願いする。

(7) 地域課題の検討

①課題の精査

【会長】 それでは、安曇野市区長会から提起され、市長から依頼のあった地域課題について、市区長会のこれまでの検討経過、取り組みも含めて、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (市区長会の目指す姿及びこれまでの取り組みの経過について説明。) 安曇野市区長会より2点について検討課題の提起をいただいた。1つ目の課題について、各区ではそれぞれ見守り、支え合い、助け合う仕組みづくりについて検討を進めているが、区を含め行政、社協、JA、NPO、各事業所等、様々な機関・団体がどう連携・協働していくのか、全市的な制度の仕組みを検証していきたいということである。区に対する制度の他、個人に対して様々な制度や取り組みがある。ワーキンググループでは、現場で活動されている方々にお集まりいただき、行政の担当部署の職員も参画させていただく。その中で、現状の制度、事業、運用の中での課題等について洗い出していく。高齢者、要介護者、障がい者、子どもなど、様々な対象者に対する支援について、強い所、弱い所が見えてくる。その部分について、誰が何に取り組んでいくか、役割を明確にしていく。全体像が見えてくる中で、改めて、区の活動についてまとめていければと考える。2つ目の課題であるが、最終的に区の加入促進をしていきたいということである。本年4月1日現在の区加入率は76.1%であり未加入の理由は様々である。しかし、区は加入・未加入に関わらず、地域全体の福祉向上に取り組まれている。区の意義を多くの皆さんにご理解いただくための方策についてご検討をいただきたい。

【会長】 地域課題の精査について事務局より説明をいただいた。市区長会選出委員より補足をお願いしたい。

【委員】 今回、市区長会より市長へ課題の提起をさせていただいた。現況、課題については事務局より説明をいただいた通りである。区の活動を行っていく中で、学校や介護事業所等、様々な団体と区の横の連携が課題となっている。連携をしていかなければ、十分な見守りができない。そのため、様々な団体の皆様のご意見をいただきながら、仕組みづくりをすすめていきたい。また、区の意義等の理解促進について、当市のみならず、全国的に自治会の課題である。特効薬はない。市区長会の専門部会でも解決策について検討している。原点に戻り、区を見つめなおし、地域力をつけ、区の意義等について理解をしてもらわなければならないとの結論に至り、まちづくり推進会議への検討を依頼した。今後、皆さまからお知恵をいただき、立派な市にしていきたい。

【会長】 安曇野市民が生活の質をどのように上げて維持していくか、これを具現化していくことだと思う。これまでのところで質問等はあるか。

【委員】 未加入の問題はよく伺うが、未加入の結果としてどのような弊害が生じているか具体的に伺いたい。

【委員】 高齢者の一人住まいが増えている。極端な場合であるが、何か事が起こった時に、区に加入していないと情報が無いため、支援をしようと思ってもできないことがある。

【委員】 そのような方は区の意味を認識できているのであろうが、高齢で役員が務まらないなどの理由もある。役員の免除等もあれば対応できると思うが。

【委員】 高齢で役員ができず、迷惑をかけてはいけなからと退会を希望する方が増えている。しかし、そういう方こそ、近所、隣組でどう支えていくか。役員ができない方は隣組で免除するなどの形をつくれれば、気を遣って退会にまで至らないこともあると思う。

【委員】 ルールが明確になっていれば、辞めたいという気持ちになりにくいかもしれないが、現状では検討段階であるのか。

【委員】 地域の慣習や風習があるので一概には言えないが、皆で支えていくような仕組みをここで考えていければと思う。

【委員】 極端ではあるが、未加入の方に、災害時どうするか、高齢になったときにどうするかというような投げかけも必要ではないか。加入していれば、すぐに助けに行けるが、未加入だとわからない。区に入るとこんなにメリットがあるとなれば、区加入につながると思う。

【会長】 加入促進では防災を切り口にしていくと、加入を考えていただけるきっかけになる。ただし、未加入の理由の中では、区に加入していなくても支障がないということが大きい。防災を切り口に、区を理解してもらえるような対策を考えていかないといけない。

【委員】 区加入のメリットは災害時に協働で支援ができる、その通りであるが、個人情報の壁にたどり着いてしまう。区未加入世帯は当然情報がない。区としても、そのような方に向かうアプローチしていくか苦慮されている。議論を深めていくとしたら、情報をどの程度まで得られるのか、どの時点で線を引けるのかがポイントになると感じた。

【会長】 区に関するご意見等々いただいた。次のワーキンググループにもつながる点である。妙案がない難しいテーマである。

②ワーキンググループの構成について

【事務局】 (ワーキンググループの委員構成 (案) について説明。)

【会長】 まず、進め方についてはいかがか。(異議なし) それでは、ワーキンググループのメンバー等の構成についてご意見を伺いたい。地域の安全・安心の中核である、安曇野市消防団に、このような場で意見を言ってもらったらどうか。

【委員】 「安曇野市地域見守り活動に関する連携協定」を締結した13団体が概ね網羅されているように思うが、郵便局が入っていない。日常見守りに気を配っておられるのが郵便局であるため、入っていただいた方が良いのではないか。

【会長】 事務局で検討をいただきたい。

【委員】 関係部署との連携はどうするのか。

【事務局】 関係する部署がいくつかある。行政としての意見を発言させていただく機会もあることから、参画を依頼済みである。

【委員】 ワーキンググループへの参画を各団体へ依頼する場合には、個人ではなく、団体からの選出とした方が参加してもらいやすい。

【委員】 支え合いマップを各地区で作成されていると思うが、可能な範囲で全体的な中身がわかれば、各区の加入状況や傾向等の参考資料になるのではないか。

【事務局】 委員の中でワーキンググループに参加を希望される方がいればお願いしたい。

③ワーキンググループによる今後の研究・検討について

【事務局】 (ワーキンググループに関する今後の予定について説明。また、今後の検討手順の案について説明。)

(検討手順案)

- i 見守り、支え合い、助け合いに関わる様々な制度、取り組みについて洗い出しを行う。
- ii 全体を俯瞰して、弱い部分、強い部分を明らかにし、誰が何を担うのか検討。
- iii 改めて、区に何ができるのかの再精査を行う。
- iv 区への加入促進について、新たにワーキンググループを立ち上げ検討。

【会長】任期2年であるが、全体の時間的なスケジュールはどのようなイメージになるのか。

【事務局】2点とも非常に重いテーマ。ワーキンググループの進捗状況によるが、約1年位で2つのテーマを検討していくことを考えている。市区長会では専門部会で様々な課題を検討しているため、場合によっては途中で新たな課題があがってくれば、別の形でワーキンググループを設置する。

【会長】区の加入率は地域や各区で差がある。未加入世帯の多いところに特別なアクションを起こし、サポートしていく時期ではないかと個人的には考えている。

【委員】当区では高齢で区を抜けるよりも、新しい方が加入しないことが問題になっている。区に加入しなくても困ることはない。行政がサービスをしすぎた結果ではないか。雪かきもすぐに行政に電話がいく。

【委員】若い方、未加入の方にも入っていただければ。そこから新しい見守り支え合いの仕組みのヒントが得られるのではないかと。また、実践者として、住民主体で地域福祉に取り組んでいる地区社協の話も聞いてみたい。

【委員】市区長会は任意組織と謳っており、市とは別組織である。そうであれば、本会議で2つ目の課題について検討を進めることに疑問を感じる。市にとっても喫緊の課題であることは理解できるが、任意組織であるという立場を堅持されて取り組む姿勢を見せていかないと、市区長会にとってもよろしくないのではないかと懸念をもつ。

【事務局】安曇野市では自治基本条例を施行した。条例の中で、区の役割、区への加入について謳っている。区の加入については努めることとした。市としてもコミュニティの重要性を重く感じており、任意組織であるが、条例に加えた。

【委員】事情は理解する。条例に加入を義務付けられなかったのは区が任意組織であるからである。違う性格の組織であることを踏まえた上で発信をしていかないと、間違ったメッセージを市民に伝えてしまう可能性があるかと懸念する。

【会長】条例の制定に向けた検討でも議論になった点である。難しい点ではあるが、委員のお知恵をかりながら進めていきたい。

(8) その他

【事務局】今後のスケジュールであるが、ワーキンググループを年明けに開催できるように調整する。推進委員会は2月から3月位に第2回を開催する予定である。

【事務局】ワーキンググループのメンバーであるが、相手方の都合もあることから、若干変更する可能性があることをご承知おきいただきたい。

【会長】以上をもって全ての議事を終了する。

(9) 閉会

【副会長】これをもって、平成29年度第1回安曇野市まちづくり推進会議を閉会とする。ありがとうございました。

以上